2001年9月号 通巻第23号

スカウティング茨城

ボーイスカウト茨城県連盟
広報専門委員会　編集・発行
http://www.d2.dion.ne.jp/~bs18raki/

より良いスカウティングを より多くの青少年に

近年、ボーイスカウト運動を取り巻く環境が大きく変化しています。平成14年度から始まる「学校週5日制」をはじめとして、省庁再編に伴う文部科学省の機構改革に伴う社会教育団体の所轄部局の変更によるボーイスカウトへの役割期待の変化の兆しに加え、また、アジア太平洋地域における日本のボーイスカウトに対する期待の増大等々を考えるとき、21世紀の扉が開いた平成13年に折しも創設50周年を迎える茨城県連盟の諸活動は、今まで以上に人道主義と博愛の精神に満ち、地域と密接な繋がりを持ちながら、かつ国際活動に目を向けた活動へと進展させていくことが必要となります。

スカウト運動は、次代を担う青少年をより良き公民として育成することをその目的としています。そのことをひとり1人が再確認して、この運動に関わる全ての指導者（県連地区役員・団委員等を含む）が「誰のためのスカウティングか」「何のためのスカウティングか」を深く考え、そのことを共通認識として持った上で、この運動に奉仕し、運営・推進していかなくてはなりません。そのために冒頭に掲げたスローガン「より良いスカウティングを より多くの青少年に」を具体的に進めていくために、アクションプランを十分に検討して、その実践に努めることが大切になるのです。

今年度の茨城県連の主な活動は、県連創設50周年を記念する各種の行事によって彩られます。茨城にボーイスカウトができてから先輩方より脈々と受け継がれてきた茨城の「スカウティング・スピリッツ」をしっかりと掴んで、それを21世紀の後輩達に引き継いでくための、まさに絶好の機会&年となります。8月に開催された第15回茨城県キャンポリーや、11月の50周年記念式典等でスカウトひとり1人が、そして指導者ひとり1人が自発的にその「スカウティング・スピリッツ」をつかみ取り、是非それを原動力として、これからの茨城のスカウト運動を進展させていきたものです。

【平成13年度　茨城県連盟事業重点目標】

1. 加盟員確保と組織の拡充
2. スカウトの手による国内及び世界の国々での社会貢献
3. アダルト・リソーシス方針に基づく指導者の養成
4. 基本に忠実に、そして時代にマッチしたスカウトプログラムの開発と展開
5. 茨城県連盟創立50周年記念事業の展開
6. 地道に、そして確実に21世紀のスカウト運動に向けて

（詳しい「重点目標」は県連総会資料をご覧ください）

平成13年度茨城県連盟役員名簿

連盟長	關　正夫
副連盟長	橋本　千代寿
	川又　光男
理事長	佐野　英樹
副理事長	山田　隆士
	竹本　俊一
地区代表理事	久保田銑十郎
	桧山　雄八郎
	佐野　英樹
	吉永　行輝
	青木　正志
	若生　悦男
	井澤　敏雄
学識経験理事	山田　隆士
	白石　陽一
学識経験理事	吉田　俊仁
	久保　勝男
	竹本　俊一
	堀江　郁男
	北川　武久
コミッショナー	津久井　一茂
副コミッショナー	八木　健二
	柏原　公子
	吉川　勲
名誉会議議員	相馬　順啓
	鈴木　明
	益子　時男
	小林　成敏
	平井　榮一
	武田　秀夫
監　事	坂本　秀雄
	小野　勝久
事務局長	三浦　勉

【各種委員会委員長】

財務委員長	白石　陽一
組織・拡張委員長	久保　勝男
指導者養成委員長	吉田　俊仁
進歩委員長	北川　武久
野営・行事委員長	竹本　俊一
健康安全委員長	北岡　隆
国際専門委員長	八木　雄二
広報専門委員長	海老原　学
スカウトクラブ委員長	久保　勝男
宗教プログラム委員長	稲野辺　正男

★DISTRICT REPORT★DISTRICT REPORT★DISTRICT REPORT★DISTRICT REPORT★DISTRICT REPORT★DISTRICT REPORT★DISTRICT REPORT★DISTRICT REPORT★DISTRICT

★HELLO IB 地区だより ARAKI

このコーナー「ハロー、アイビー」は、各地区の通信員（地区記者）等からの情報で構成しています。地区も団も隊も、スカウト活動すべてが取材の対象だよ。

★from DISTRICT PRESS ☆★from DISTRICT PRESS ☆★from DISTRICT PRESS ☆★from DISTRICT PRESS ☆★from DISTRICT PRESS ☆★from DISTRICT PRESS

県 關 連盟長を囲む会

平成13年3月27日（日）「關連盟長を囲む会」が水戸京成ホテルにおいて開催されました。

5 第3回 平成12年度団委員・隊指導者合同研修会

平成12年12月2日（土）、土浦市青少年の家において第5地区の組織拡張委員会とコミッショナー主催のラウンドテーブルが合同で開催する「団委員・隊指導者合同研修会」が開催されました。今年で第3回となるこの研修会では、今まで講師として日連の組拡副委員長や青年海外協力事業の専門家等多様な方々を迎えてきましたが、今回は津久井県コミッショナーを講師に要請して「スカウト運動が直面している課題に向けて、指導者は今、何をなすべきか」をテーマに、60数名の参加者たちを6つのグループに分け、グループ討議形式で講師主導のもと地区トレーニングチーム及びコミッショナーグループのアドバイスを得て、設定された課題を真剣かつ積極的に検討・研究しました。

4 第4地区 ボーイスカウト隊合同訓練

平成12年11月11日（土）〜12日（日）の2日間、第4地区ボーイ隊の合同訓練が吾国山洗心館で開催されました。秋晴れの中、各隊各班毎にJR笠間駅に集合、笠間市街のオリエンテーリングを楽しんだ後「洗心館」へ。テント設営の後の、開所式では吉永地区委員長から「第4地区全隊が集結した今日の各隊スカウト隊の親睦を図ってもらいたい。そして集大成の場、これまでの活動を大いに活かしてほしい。」と激励の言葉をいただきました。また各班それぞれ趣向を凝らした自己紹介があり、盛り上がりました。

夕食では各班から交換留学生を1名募り、楽しくなごやかに親睦を図っていました。夜は「夜空の神秘Ver.1」のプログラムです。天体望遠鏡で土星や星座を観察し大自然の素晴らしさに皆で感動しました。そして、寒さもなんのそのと眠りにつきました。

翌日はあいにくの小雨。ガタガタとふるえながらの朝食のおいしさ。その後はおきまりのテント撤収と意義深い訓練となりました。

県

日本連盟年次総会

水戸第8団岩間君表彰される

水戸第8団ベンチャー隊の岩間君は、ユネスコが世界各地で展開している「わたしの平和宣言」署名活動の日本からの署名をパリのユネスコ本部に届ける「ピースメッセンジャー」として選ばれ、平成12年9月21日に、日本で集まった100万人の署名と平和メッセージを、パリのユネスコ本部で松浦事務局長に渡し、無事にその大役を果たしました。

その功績により、本年の日本連盟の年次総会の会場で、杉原総コミッショナーから表彰状を授与されました。

4

第4地区

県連50歳の誕生日＆つくば1団25周年記念式典

気持ちの良い晴天の5月20日。4地区主催の茨城県連盟50周年の記念行事が、つくば市において、4地区全ての団が参加 により、厳粛な中で行われました。

つくば第1団の25周年記念式典の後で各団がそれぞれ作成した「横断幕」。字体も色も素材もバラバラですが、妙に微笑ましく、各団が集まってこその地区だと再認識しました。もともと目的が一緒なのですから、当たり前なのですが、敢えて各団自由に作製してもらうことで、互いの個性を出し合い、認め合って、そして協力してひとつのものを作り上げたことは、たいへん素晴らしいことだと思います。

県

2001年ジュニア・サイエンス・クルーズ

8月18日〜26日の9日間、海外青少年交流協会が主催する「ジュニア・サイエンス・クルーズ」にボーイスカウト茨城県連から6名のボーイスカウトと2名のカブスカウト、そして指導者1名が参加しました。グアムでの滞在のあと「ふじ丸」に乗船し、船上でのイベントに参加しながら多くを学び、また交流を深め、26日に帰国しました。

3

第3地区

日韓スカウトフォーラム参加

8月5日（日）〜8日（水）の3泊4日、広島県青少年野外活動センターにおいて日本連盟が主催する「日韓スカウトフォーラム」が開催され、当県連から下館第3団ベンチャー隊の加藤孝幸くんと坪松卓耶くんの2名が参加しました。

折しも歴史教科書問題、首相の靖国神社参拝など、日韓関係が日に日に悪化している中、交流は、両国のスカウトとも笑顔の挨拶からはじまりました。加藤くんの「素直に語りかけてみよう」の心が通じたようです。

宮島、原爆資料館の見学の中で互いにうち解け合い、日程後半のディスカッションでは「日韓問題、世界平和」をテーマに話し合い、「21世紀は自分たちが中心となる時代。お互いに平和を願った心を持った人達がいっぱいになれば、今騒いでいる問題もなくなるので、お互いに仲良く交流していきましょう」との結論をもって、全日程を締めくくりました。

●茨城県連盟創立５０周年記念特集　茨城県連盟の諸先輩方のことば　～第３回～

「善　意」

第３代理事長（現副連盟長）
橋本 千代寿

あれは、土浦に３ヶ団が結成された頃と記憶している。
合同キャンプを出島村歩崎で実施した時のことである。キャンプファイアーをお寺の庭で開き、楽しいファイアーも終わりに近づき 燃えさかった営火も静まり、ちょろちょろとなり、全員が静かに「１日の終わり」の歌を斉唱し、黙想をしていると、突然「パチパチ」という音がしはじめた。はっと思って目を開くと、境内の売店のおばあさんが、大きなかごに、山盛りに入れた枯れ松葉を下火になった営火にあけているではありせんか。私もスカウトも目をみはっておどろいた。何秒がたったのかわからなかったが「もえろよもえろ」の合唱が再び一斉におこり、静かに湖上に流れていった。翌日私どもは帰途につく前に「おばあさんありがとう」いう言葉のみを残して去った。
その後約30年振りに歩崎をたずねた。お寺や境内の様子は変わっていない。売店も昔のとおりあってなつかしかった。しかし売店のおばあさんの姿はなく、男の老人が店番をしている。私は店の奥の仏壇に向かって静かに頭を下げて去った。

無い時代

土浦1団が発足したとき、制服は市役所より永久貸与の方法でそろった。但し指導者の制服はない、制帽もない、市内で作った米軍型の略帽、まちまちの服装でとった発団記念写真、テントも小田山には全部そろってなく、どこかで借りてきたようにおぼえている。それでもスカウトは班単位で工夫したキャンプ箱には、創意工夫した炊事用具、工作用具が立派に準備されている。その箱をかついで、新宿御苑の全国大会に参加した姿は懐かしい思い出となっている。
竹の食卓、毛布で作った寝袋で、枕元に翌朝の炊事の薪を用意し、木製の支柱にしがみついて過ごした嵐の中のキャンプ生活。これでもけっこう楽しいキャンプのイメージは、今も私の胸中に残っている。何から何まで買い求めればそろえられる現在とどちらが楽しいか･･･。比較することが無理かもしれない。

第15回茨城県キャンポリー（2001年）会場にて
このキャンポリーでは、橋本副連盟長は、「スカウトと一緒に寝泊まりしてこそのキャンポリーだ」と、毎晩寝袋にくるまってテントで寝ておられました。そこに指導者の在るべき姿を見ました。（広報部）

奉仕活動

土浦の花火大会、近年は見に行かないのでよくわからないが、25年頃より30年頃までは、土浦警察署と共同で交通整理に奉仕した。花火は音のみ聞こえて、不平も言わずに奉仕するスカウトの姿に、一般の通行人は、警察官よりも良く指示に従ってくれた。ある人は私に「ボーイスカウトは知らないが、花火の時に交通整理をしている子供達は知っているよ」と語ってくれた。現在とは事情も違っているので比較は出来ない。
しかし、当時のスカウトが、初代総長後藤新平氏の自治三訣

1. 人のお世話にならぬよう
1. 人のお世話をするよう
1. そして報いを求めぬよう

を実践した姿は、現在のスカウト諸君も先輩に負けないで、がんばってほしい。

終わりに

いろいろと書きたいことが、あとからあとから浮かんでくるが、当時のスカウト諸君も立派な社会人、失敗談も書けないだろうと思って筆を止める。何人かの人が、幼き頃の自分を思い浮かべてくれれば幸いと思う。

【1983年 土浦地区35周年記念誌「亀跡」より】

◆心に残る･･･スカウトのお話？？　その４

那珂町で行われた第12回茨城県キャンポリー、その3日目に台風が直撃し、近くの中学校の体育館に避難という騒ぎとなった。テントの鋼鉄の支柱は曲がりそして飛ばされ、車は傾き、仮設トイレはほとんどが横倒しというとんでもないありさまであった。
そのときの出来事である。テントやフライの補強でビショ濡れになったある団のリーダー。おもむろにシャンプーを取り出すと頭から振りかけ、土砂降りの雨の中に飛び出し15分。どんな土砂降りの雨もシャワーの水量にはほど遠いことを知った。
次は、倒れたトイレの上を飛び移り、ドアを開けて中をのぞき込む2人。閉じこめられた人はいないか確認していたのだが、滑りやすく一歩間違えれば･･･なのだが、実に楽しそうだった。
最後は、避難先の体育館。窓打つ風雨が不安を煽り誰もが沈んだ気持ちになっていた。その時「UNO」という元気な声、見るとある隊だけが楽しそうに ウノをしている。炊き出されたおにぎりも実に美味しそうに食べていた。　B-Pは言っている「困難は、スカウトが微笑んだ瞬間に、困難ではなくなる」、そして「スカウティングはゲームである」。それを実証した例であろう。

50周年記念マーク
デザイン　吉田　俊仁

茨城県連盟創立50周年記念
第15回茨城県キャンポリー記念アルバム

平成13年8月9日〜12日

前日　準備

着々と準備が進む。

開会式リハーサル

9日　到着〜設営

松明入場

開会式

相馬氏　詩の朗読

橋本副大会長

関　大会長挨拶

韓国連盟ご挨拶

弥栄

開会宣言

隊旗入場

スカウト決意の言葉

選択プログラム

地区対抗
コンペティション

FM-IB Station

カブ・ビーバーステージ

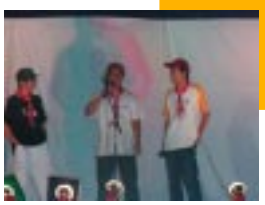
各地区パビリオン

キャンプ生活

雨ニモマケズ

韓国派遣団

ナイトプログラム



閉会式

キャンポリー新聞

WOOD BADGE

ウッドバッジ研修所

いずれも「土浦市立土浦青少年の家」にて

カブスカウト課程　茨城第29期　八城健彰所長　28名
2001.5.3-5.6

ベンチャースカウト課程　茨城第4期　石本正樹所長　12名
2001.5.3-5.6

ビーバースカウト課程　茨城第10期　中島清行所長　12名
2001.10.5-10.8

ボーイスカウト課程　茨城第27期　戸舘善敬所長　12名
2001.10.5-10.8

「感謝と友情の火」採火と伝達

この「感謝と友情の火」は、県連50周年を記念して、各地区におられる最長老からその地区のスカウティング・スピリッツを込めた「火」を現役のスカウトに伝授してもらい、それを15ICの開会式に持ち寄って1つの「火（未来に伝えるスカウティング・スピリッツ）」とし、その下に集おうというものです。次の3つの地区から、その採火の報告がありました。

第3地区

第6地区

第7地区

平成12年度アジア太平洋提携プロジェクト

バングラデシュ派遣報告

水戸第4団ローバースカウト
吉川　勇

●派遣期間　平成13年2月24日〜3月11日　(16日間)
●派遣先　バングラデシュ国　首都ダッカ
及び　プロジェクト地バルグナ・アムタリ
●派遣目的　両国連盟のローバースカウトによる「経口補水療法(以下、ORT)の啓蒙」を目的として、平成9年度(平成10年2月〜3月実施)から5カ年計画で実施する。
●派遣員　合計　22名(内、団長1名、アドバイザー2名)
●派遣の経緯

1992年　「第2回アジア太平洋地域環境教育セミナー」(日本)→東京宣言
1994年　「マラケシュ国際シンポジウム」(モロッコ)→マラケシュチャーター
1995年　第1回事前調査　バングラデシュ連盟から2種類のプロジェクト提案がされた。
①ORT(経口補水療法)
②バングラデシュ連盟野営場整備
1997年　平成8年度アジア太平洋提携プロジェクト派遣(第2回事前調査)
1998年　第1回派遣　バングラデシュ西部ジョソール郊外(12名)
1999年　第2回派遣　バングラデシュ北西部シラジュゴンジ郊外(21名)
2000年　第3回派遣　バングラデシュ北部マイメンシン郊外(16名)

●ORTについて

世界中の、主に開発途上国と呼ばれる地域で幼い子供の命が毎年1500万人奪われているといわれています。そのうち500万人の死が下痢から来る脱水症によるものだということです。この下痢による脱水症に簡単かつ経済的に対処できるのがORTです。

ORTとは Oral Rehydration Therapy の略で、ORS(Oral Rehydration Salt:経口補水塩)という粉末の薬を水に混ぜて飲むことにより、体の補水能力を高めて脱水症を回復させる治療法のことです。ORSは食塩と砂糖などを混ぜたもので、1袋わずか5円程度で手に入るため、バングラデシュ国内でもORS生産工場ができるなど、活発な普及活動が行われています。

ORTは実際バングラデシュ国内でもかなり普及していて、バングラデシュ連盟自体がORTに関してすでに取り組みを行っています。ではなぜあえてORTなのかということです。それには、2つの理由が挙げられます。

1つは日本のローバーが啓蒙活動を行うことによってバングラデシュのローバーへの刺激になるということです。もう1つは日本のローバーがORTについての知識を得て、日本での認知活動を行うことにより、日本において途上国への関心が深まることです。

ORTの啓蒙活動それ自体だけでなく、バングラデシュと日本のローバー同士の提携プロジェクトとしても、このプロジェクトの意義があると考えます。

●プロジェクトにおける日本派遣団の立場・姿勢

この保健衛生啓蒙プロジェクトはバングラデシュ連盟の方がより高い知識を持っています。また、村でのレクチャーにおいても英語ではなくベンガル語を必要とします。このことから日本派遣団のプロジェクトへの関わりは難しいものがあります。しかしながら、事前集会から何度も繰り返されてきた議論の中で、日本派遣団はどう関わっていくべきなのか、ある程度の答えは出されています。

○事前にできる限りの学習と情報の共有を行う。
必要な保健衛生やプロジェクトの知識、関係するベンガル語、そして現地の社会経済状況をできる限り調査し、集会・ML(メーリングリスト)等で情報を共有します。現地に行って現地ローバーやキーパーソン(ヘルスワーカー)を学ぶ時間を省き、主体的に参加するためです。

○「お客様」にならずに積極的・主体的に参加する。
事前に入手した情報を最大限に活用して、レクチャーや体力奉仕を進んで行う。現地ではお客様として扱われ椅子に座ることを勧められます。座ったままではなく、「私に説明させてくれ」と言う積極性が必要であると考えます。

○現地ローバーと「共同」で行う。
TWINNING PROJECT であるため、バングラデシュと日本のローバーが手を取り合って活動することが求められます。共に体力奉仕し、レクチャーではベンガル語の発音を直してもらう協力関係が必要です。

○Plan-Do-Check-Actionのサイクルを活用する。
特に評価についてはバングラデシュの風土があまりなじみがないようでした。ですが、プロジェクトの評価方法を現地ローバーに伝えることが、プロジェクトのさらなる高度化をもたらすと共に、現地ローバーの活動のレベルアップを図ることができると考えます。

●評価・反省・感想

今回私の役務はクルー担当のサブリーダーでした。クルーをうまく一つにまとめるために苦労した点が多々ありました。今までクルーを組織して活動することがなかったため、今回のクルー担当サブリーダーという役務に戸惑うこともありました。

現地では英語を使ってのコミュニケーションでした。日常会話では特に困ることもありませんでしたが、専門的な領域になると準備していた以外は全く分からないこともありました。さらなる英語の鍛錬が必要であると感じました。

また、アジアという国々は日本人にとって未知の部分が多く、勉強すべき点が多々あるように感じました。海外というとどうしても欧米に目がいってしまうのが現実ですが、アジアにも目を向ける必要があると思いました。全体的に初めての経験することが多く、ほとんど全てが反省材料になりました。

今回参加したバングラデシュ派遣での体験を広く伝えていきたいと考えています。これは私個人に限ったことではなく、今回参加した派遣員全員の総意です。現在、ローバーが主体的に参加し「貢献」できる国際活動というものは、日本連盟が把握する限り、このバングラデシュ派遣しかありません。この経験を伝えることにより、第2・第3の「貢献」型の国際活動が実現されることを望みます。茨城ローバース会議の方にもフィードバックしていこうと考えています。次回の派遣に茨城連盟から参加者が出ることを期待しています。

リーダー・プロジェクト紹介

スカウティング「スカウトの原点を訪ねて」B-P ツアー

つくば第1団の指導者有志8名は、グループプロジェクトとして、昨年9月20日から「スカウティングの原点を訪ねて」をテーマに、スカウティング発祥の地イギリスのベーデン-パウエル縁の地を巡る旅を行いました。

【メンバー ： 柏原　繁、柏原公子、八城健彰、八城貞子、今井秀孝、今井祥子、今井雅代、今井秀和】

報告から抜粋して掲載します（編集部）

●目的

スカウティングを実践する者として、その原点であるB-P卿が創設したボーイスカウト活動発祥の地を訪ねて、その足跡を探ると共に、現在の活動状況を実地に調査・見学する。

1. スカウティング発祥の地を実地に調査して、その原点を体感する。
2. これまでのつくばでの実践と対比して、今後の参考にする。
3. 一般的な国際見聞を広めて今後に活かす。
4. 団内の親睦をいっそう深める。
5. 日頃の業務等を離れて、十分な休養を取る（リフレッシュ）。

●ベーデン-パウエル・ハウス

ロンドン・サウスケンジントンにあります。交差点で小さな看板（写真1）を見つけ感激!!　ハウスの入り口にB-Pの立像がありました。入口事務所には、いたって事務的な女性がいました。ロビーには、ボーイスカウトに関した月刊誌（日本で言うスカウティング誌）や数少ない記念品、制服があり、B-P着用・使用の品はウインド・ケースに納められ展示してありました。ここはユースホステルや会合等に使われています。

●ギルウェル・パーク

ロンドンの北方エッピングの森の一角にあります。列車とタクシーで指導者のあこがれの地ギルウェル・パークに到着しました。ボーイスカウトの歴史がわかり、数珠の様に連なるビーズ～酋長からの贈り物～が頭をかすめました。クーズーホーン（大角笛）の現物に感激!!

広大な野営地、心を刺激する数多くの品々・・・。もう少し若かりし頃に来たかった。

Gilwell Park

●ブラウン・シー島

ロンドンから列車で2時間、そこから船で少しのところに、B-Pが実験キャンプを行ったブラウンシー島があります。スカウトキャンプ発祥の地、今は自然保護区で環境を大切にする島。赤リス、クジャクが人なつこく、鳥の声、風の動きだけを感じるこの島を歩き、20人（21人参加したが1人は途中で帰ったので記録では20人となっている）の子供達とB-Pを偲び歴史を感じながら、キャンプ地の記念碑の前で記念撮影。

The monument of the first Scout camp →

★県連インフォメーション

●県連50周年記念式典のお知らせ

ボーイスカウト茨城県件名は、1951年(昭和26年)5月に発足して以来。2001年(平成13年)に50周年を迎えました。「今、全てに感謝、そして未来をひらこう!」そして「Catch the Scouting Sprit!」を合い言葉に、数々の事業が行われてきました。そして記念式典が下記の日程で開催されます。 式典は、スカウトが運営するスカウトのための式典、県連の維持運営に功績のあった方々等をお招きして行う記念式典(参加者は団委員長に依頼済み)と祝賀会の3部構成になっています。

●第1部(スカウトのための記念式典)

日時:　11月11日(日)　10:30-11:30　(受付10:00-)
場所:　ホテル　レイクビュー水戸
内容:　県連50周年の歩み紹介、スカウト宣言採択、友情リレー他
参加者:　ビーバー〜ローバー(各隊代表1名)+引率1名
その他:　参加隊の隊旗をご持参ください。正装。

●友情リレー(最終区間パレード)への参加依頼

集合:　11月11日(日)午前7:30　水戸市米沢町グランド
解散:　午前10:30 平和公園(市外参加者)、桜堤(市内)
内容:　式典会場までのパレード(県内各団対象)
参加者:　任意(引率責任者は原則ボーイ隊長)
その他:　1.各隊隊旗を持参してください。
2.参加申込・問合せは、平戸地区事務長へ
TEL029-253-3052 FAX 029-253-1813

★スカウトくいず　「まちがい7(セブン)」

前回は5名の正解者がいました。しかし下の①〜⑤の必要事項が書かれていなかったため、正解者は次の4名となりました。そんなに難しくはなかったよなぁ‥‥。

●神栖第1団　カブ隊　　松沢結理香　さん
●日立第1団　ビーバー隊　　北見　涼　くん
●日立第1団　カブ隊　　北見　啓太　くん
●阿見第1団　ボーイ隊　　野口　円　さん

以上4名、おめでとうございます!!

さて、今回は写真で難しい。しかも間違いは2つ増えて7つの間違いがあるのだ!!　微妙な位置の違いまで見極めてくださいねー。正解が解った人は、右の太い枠の方をコピーして(切ってはいかんぞ、切っては!!)官製はがきに貼って、赤鉛筆で間違っているところを○で囲んで、

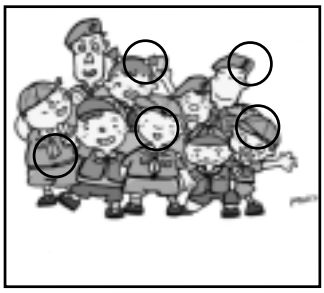
①所属団隊　②住所　③氏名　④電話番号
⑤スカウティング茨城の感想

を書いて、下記宛に送ってください。正解スカウトの中から抽選で5名に素晴らしい賞品をお送りします。
(〆切は、平成13年11月30日、当日消印有効です。)

〒310-0034　水戸市緑町1-1-18　県立青少年会館
ボーイスカウト茨城県連盟事務局　SC23クイズ係

●前回の正解

左から
①左端のカブのチーフ
②女性リーダーの髪どめ
③中央のカブの鼻
④右後ろのベンチャーのベレーの色
⑤右端のカブの帽章



編集後記

県キャンポリー前に特集号を‥‥と思っていたのですが、あまりの忙しさにとうとう発行できませんでした。そこでフルカラーで報告号(記念アルバム4ページ)を作ってしまいました。今回のキャンポリーでは広報委員会も広報部として3人のベンチャーと共に新聞発行やホームページをつくっていきました。きっと彼らは取材の楽しさ厳しさを味わったことと思います。これからも「スカウティング茨城」として新聞発行は続きます。おもしろいこと、楽しい事件等おきましたら、広報委員会におしえてくださいね。すぐに地区記者が取材に行きます。また、楽しい企画も待っています。合い言葉は「来るなら来い!!」
(編集長)　　平成13年9月30日